

令和5年度 奈良県立高等養護学校 学校評価総括表 年度末報告	
年度	令和5年(計画2年目)
教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自主的・自律的な生活習慣を養い、自己肯定感を高め社会への適応力を身に付ける。 ○ 社会参加・自立をめざし、必要な能力や態度を育てる。
年間重点目標	様々な体験活動にICT機器を組み合わせて活用することで、効果的な学びにつなげる。

【特別支援学校用】

運営方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ 障害理解を深め、教員の専門性の向上に努める。 ・ 社会自立と社会参加に向けたキャリア教育を推進し、生徒の実態に応じた教育課程づくりに取り組む。 ・ 学校と家庭、地域との連携を図り、協働しながら地域にある学校づくりを進める。
------	---

奈良県教育振興基本計画（「奈良の学び推進プラン」）が示す各テーマごとの学校教育目標

テーマ	学校の教育活動に関する目標(A)	計画期間における具体的目標(B)	令和5年度末の目標達成(C)	令和5年度末の状況(D)	自己評価(E)	学校関係者評価(F)	改善方策
1. こころと身体を子どもの成長に合わせてはぐくむ	障害の状態を踏まえた健康状態の保持・改善	家庭や医療機関等との連携の推進	家庭や医療機関等との連携の推進		A	生徒の安全を守るために取り組んでいた。引き続き、家庭や医療機関との連携を密にしている。	
	子どもの健康課題を踏まえた健康安全教育の充実	医療的ケアにおける研修の実施 1回	医療的ケアにおける研修の実施 年1回	Lビーンを使用する生徒が居るため、教員向けにLビーン向けの研修を実施。教員間で共通理解を図ることができた。	B	生徒の安全を守るための努力を続けてほしい。	年度が経つと新体制になるため、医療的ケアにおける研修を続けて実施していく。
	食べる力を育む学校給食や食育の推進	歯磨き指導の充実、摂食指導における研修の実施 2回	歯磨き指導の充実、摂食指導における研修の計画 年2回	歯磨き指導は、昼食後に歯磨きを行うよう指導し、習慣化させている。歯磨きについては歯磨き指導にも必要である。生徒会や食育指導を実施。栄養講話や、パンスミのい食事について指導した。	A	指導後の歯科受診等もより促していく必要がある。	昼食後の歯磨き指導を継続して行う。歯の磨き方については、生徒会等との時間を活用して指導していく。
2. 学ぶ力、考える力、探求する力をはぐくむ	実態に即した授業づくりと学習評価の充実	教科別会議 各学期5回	教科別会議 各学期2回以上	教科別会議は3回実施。分教差を含めた全体での教科会議を2回実施	B	授業内容の充実につなげてほしい。	コースの再編に伴い1年生の教育課程（専門教科）の変更を行った。今後は専門教科（コース別）の進捗についてコース別作業部会の実施が必要。
	POCAサイクルによる授業改善	研究授業や授業検討会の実施 3回以上	研究授業・研究討議実施、グループ研修会の実施 年6回	校内研究授業を行い、単元設定の理由や指導のめい等を検討した。また、協議のテーマを明確にすることで、スムーズな話し合いができた。グループ研修会では授業でのICT機器の活用について年5回の教科会議と1回の報告会を実施した。	A	生徒の組織理解や考える力の向上につながる研修をしてほしい。	校内研究授業は協議のテーマを明確にさせて進める。グループ研修会は、教員のニーズに応じた研究テーマで実施し、来年度も同様の回数で他分掌等と連携しながら計画的に行う。
	ICTを活用した教育の推進	ICT機器を活用した授業の実施 100回以上	ICTを活用した学習活動の実施 80回	ICT（Google Chromebookや電子黒板）を活用した学習活動を継続して行っている。	B	教員のスキルアップをよりいっそう図ること。	より積極的・効果的なICT活用に向けた教員間の情報共有や研修等の実施を行う。
3. 働く意欲と働く力をはぐくむ	小学部・中学部・高等部を通じたキャリア教育の充実	キャリア教育に関する職員研修の実施 1回以上	進路や社会自立に関する研修 年1回	本校の進路指導について校内研修を行い、社会参加団体から講師を招き、探求に至るまでの流れを改めて確認し、共通理解を深めた。	A	生徒の事前・事後指導に力をいれてほしい。	次年度も、より効果的な指導に生かせる内容を模索する。
	福祉、労働等の関係機関と連携した情報発信	進路指導の手引書の改定 毎年完成	進路コースの発行 年4回	年間回の進路コースを発行し、進路に関する取り組みについて掲載した。また福祉サービスについて情報提供を行った。	A	これからの情報提供を続けてほしい。	引き続き、定期的に発行し、進路関係の情報を発信する。
	本人や保護者のニーズに応じた進路指導の充実	職場開拓と実習受け入れ先の拡充 100社以上	関係機関及びキャリア教育コーディネーターと連携し、新規開拓事業所訪問 50社	関係機関やキャリア教育コーディネーターと連携し、50社以上の新規開拓事業所に関することができ、実習へつながることができた。	A	実習のある実習になるよう、この成果をぜひ活かしてほしい。	ニーズに応じた実習の計画で進めよう。引き続き多様な職種と新規開拓を行う。
4. 地域と協働して活躍する人を育てる	コミュニティカールの運営・推進	学校運営協議会の開催 年3回	学校運営協議会の開催 年2回	今年度も2回開催し、部会を中心に委員の方々と教員との間で関連な意見交換を行うことができた。	A	協議会の運営は円滑に行われた。	次年度は最終目標(年3回の開催)を目指す。
	地域社会とつながりや地域資源の活用	地域資源を活用した学習の実施 年3回	学校周辺施設での緑化・美化活動 年2～3回	「花いっぱい運動」で心身障害者福祉センターとリビビセンターの緑化作業（春・秋の2回）、多謝樹向・教育研究所・登壇駅前プロダクト広場を実施した。	A	引き続き、積極的に地域に出てほしい。	地域の公園の除雪やプラント・花の設置等活動場所をより広げたい。
	社会参加の推進	社会の仕組みや地域の施設に関する学習 年3回	学校の場についての学習（1年生） 年3回以上	1年生の社会で複数回の学校周辺施設取り組んだ。	A	引き続き、積極的に地域に出てほしい。	地域資源のさらなる活用を図り、生徒と地域とのつながりを実感させる取組を進める。
5. 地域で個性が輝く環境と仕組みをつくる	特別支援教育に関する理解啓発	交流及び共同学習の推進 年10回以上	交流及び共同学習の推進 年10回	各分教室で高校生と活動する機会（学校行事）の積極的実施や、他県校の交流等における交流を通じ、生徒たちの態度・達成感を引き出すことができた。	A	本校・分教室とも積極的な取組をされている。	今後も各校校において様々な実施形態を模索し、真心の交流を図る。
	奈良県心い対策方針に基づき防止対策の強化	いじめ防止等に係る計画の作成	いじめ防止基本方針と年間計画の作成 年1回	今年度も基本方針及び計画作成を行うことにより、いじめ防止推進委員会や生徒会等が計画の開催を通じて、生徒の悩み解決に向けた取組を進めることができました。	A	担当委員会や見守り会議等を通じて、情報共有・問題解決にあたりたい。	各種アンケートの結果から、様々な情報の収集と共有を図り、生徒に寄り添う指導に資する。
	個別の教育支援計画や個別の指導計画の実効性のある活用	保護者等の参画及び関係者との連携の推進	保護者等の参画及び関係機関と連携した各計画の作成 年3回	保護者等の参画及び関係機関と連携した各計画の作成 年3回	保護者等の参画及び関係機関と連携した各計画の作成 年3回	A	保護者等の積極的な取組を促していただきたい。

達成割合 A：90%以上 B：70～89% C：50～69% D：49%以下

3 評価結果の分析、今後の改善方策等

令和5年度は中期計画の中間点に当たり、前年度の反省をもとに各部門で工夫を凝らした取組に努めた。評価としては大きく変わっていない。最終年度となる次年度は適切に最終目標を設定し、意欲的な取組に努める。また、学校関係者（学校運営協議会委員）の意見も踏まえ、魅力ある学校づくりを目指す。